

# 施策評価シート

施策等名称	八ヶ岳総合博物館の充実	体系番号	0201020103
		主管課	文化財課

## 1 施策基本情報

現状と課題		<p>・地域を取り巻く社会環境は、急激な変化を遂げており、市民の学習要求の多様化・高度化に対応し、様々な地域課題や生活課題を解決するために、社会教育の重要性は高まっている。</p> <p>・更なる学習の充実を進め、「ひとづくり」を積極的に推進するとともに、地域・学校・行政の連携による推進体制の整備が望まれている。</p> <p>・学習ニーズを的確に把握し、市民の生涯にわたる自主的な学習活動が活性化するよう、様々な学習機会の提供や内容の充実、推進体制の整備が求められている。</p>					
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)		<p>「市民が郷土の自然・風土やそれを舞台にして生きてきた人々の歴史や生きかたを正しく理解し、守り生かし、先人の教訓(えいじゆ)に学び、深く郷土を愛し、その未来を創造する素地を養う学習館」としての役割を担っています。今後は、科学教育振興の拠点として、プラネタリウム投影・自然観察や科学工作などの講座を開催し、科学に親しむ機会を充実させていく。</p>					
施策指標	指標名称		指標の説明(単位)		計画策定期		
	① 年間入館者数		人		2022年度目標値 2027年度目標値		
	② プラネタリウム視聴者数		人		13,445 17,500 20,000 4,500 5,000		
	③ 市民研究員養成事業参加者数		実質人数(人)		65 80 100		
施策の柱1	名称	博物館の運営と機能の維持			主管課 文化財課		
	詳細	<p>貴重な資料を収集し、良好な状態で保存し、世代を超えて引き継いでいくとともに、調査研究した成果を教育に活かす。</p>					
	まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定期	2022年度目標値 2027年度目標値		
	1	企画運営会議案件数	会議案件数(件)	2	3 4		
	2	収集資料数	資料数(点)	50,000	51,500 53,000		
	3				5 6		
	基本政策間連携						
	名称	博物館事業の充実			主管課 文化財課		
	詳細	<p>時代に即した新たな手法を導入した常設展示、充実した施設設備、魅力ある事業展開で、多くの市民が学ぶ場としてにぎわう博物館を目指す。</p>					
	まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定期	2022年度目標値 2027年度目標値		
施策の柱2	1	年間入館者数	人	13,445	17,500 20,000		
	2				3 4		
	3				5 6		
	基本政策間連携						
	名称	科学教育の振興			主管課 文化財課		
施策の柱3	詳細	<p>プラネタリウム事業を始めとする科学教育を推進することで、21世紀の科学時代にたくましく生きる市民の育成を図る。</p>					
	まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定期	2022年度目標値 2027年度目標値		
	1	プラネタリウム視聴者数	人	2,109	4,500 5,000		
	2				3 4		
	3				5 6		
	基本政策間連携						

## 施策評価シート

施策等名称	ハケ岳総合博物館の充実	体系番号	0201020103
		主管課	文化財課

※施策の柱が4つ以上ある場合は下記へ記載

	名称 産学公民連携の推進	詳細 産学公民の連携を進め、生涯学習活動の拠点のみならず、人的交流・観光交流等の拠点として、総合博物館をまちづくり・ひとづくりの要衝へと発展を図る。	主管課	文化財課			
施策の柱 4	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分		
	1	市民研究員養成事業 参加者数	実質人数(人)	65	80 100	1 市民研究員養成事業 2 学校支援・連携事業(博物館運営事業と関連) 3 公立大学法人駒込東京理科大学連携事業(博物館運営事業と関連) 4 博物館等各種施設との連携事業(博物館運営事業と関連)	
	2						
	3						
		基本政策間連携			5 6		
	施策の柱 5	名称		主管課			
		詳細					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分	
		1				1 2	
		2				3 4	
3					5 6		
		基本政策間連携					
施策の体系 6		名称		主管課			
		詳細					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分	
	1				1 2		
	2				3 4		
	3				5 6		
		基本政策間連携					
	施策の柱 7	名称		主管課			
		詳細					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分	
1					1 2		
2					3 4		
3					5 6		
		基本政策間連携					

施策等名称	ハケ岳総合博物館の充実	体系番号	0201020103
		主管課	文化財課

## 2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)					
施策	年間入館者数	13,445	17,715	16,529	7,787	7,241	10,709	12,26
1		17,500	101.23	94.45	44.50	41.38	61.19	70.09
変動要因等	2018年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2015年度・12,150人、2016年度・13,445人(モバイルプラネットリウム導入)、2017年度・16,520人(雨予約による入館者の増)、2018年度・17,715人(開館30周年記念事業実施)。						
	2019年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2016年度・13,445人(モバイルプラネットリウム導入)、2017年度・16,520人(雨予約による入館者の増)、2018年度・17,715人(開館30周年記念事業実施)、2019年度・16,529人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)。						
	2020年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2017年度・16,520人(雨予約による入館者の増)、2018年度・17,715人(開館30周年記念事業実施)、2019年度・16,529人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)。						
	2021年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2018年度・17,715人(開館30周年記念事業実施)、2019年度・16,529人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)、2020年度・7,787人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)。						
	2022年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2019年度・16,529人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)、2020年度・7,787人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)、2021年度・7,241人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)。						
	2023年度	近年の年間入館者数と特殊要因。2020年度・7,787人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)、2021年度・7,241人(新型コロナウイルス流行による入館者の減少)、2022年度・10,709人(新型コロナウイルス流行からの持ち直しによる入館者の増)。						
施策	プラネットリウム視聴者数	2,109	4,172	4,005	0	248	286	828
2		4,500	92.71	89.00	0	5.51	6.36	18.40
変動要因等	2018年度	・2016年7月、モバイルプラネットリウムを導入。2016年度・2,109人、2017年度・4,054人、2018年度・4,172人 ・視聴者数は、館内投影、学習投影、その他投影の合計値。視聴者数の増加は、プラネットリウム事業の浸透である。						
	2019年度	・2016年7月、モバイルプラネットリウムを導入。2017年度・4,054人、2018年度・4,172人、2019年度・4005人 ・視聴者数は、館内投影、学習投影、その他投影の合計値。新型コロナウイルスの流行により、3月にプラネットリウムが開催できず、減少となった。						
	2020年度	・モバイルプラネットリウムを導入。2017年度・4,054人、2018年度・4,172人、2019年度・4005人、2020年度・0人 ・新型コロナウイルスの流行により、プラネットリウムが開催できず、減少となった。						
	2021年度	・モバイルプラネットリウムを導入。2017年度・4,054人、2018年度・4,172人、2019年度・4005人、2020年度・0人、2021年度・248人 ・新型コロナウイルスの流行により、あまりプラネットリウムが開催できなかつた。						
	2022年度	・モバイルプラネットリウムを導入。2017年度・4,054人、2018年度・4,172人、2019年度・4005人、2020年度・0人、2021年度・248人、2022年度・286人 ・新型コロナウイルスの流行からの持ち直しにより視聴希望者は増えたが、人數を制限しての開催としたため、微増。						
	2023年度	・モバイルプラネットリウムを導入。2017年度・4,054人、2018年度・4,172人、2019年度・4005人、2020年度・0人、2021年度・248人、2022年度・286人 ・アフターコロナにより視聴希望者は増えたが、人數を制限しての開催としたため、コロナ前の水準には満たない。・地区公民館や学校からの申込みが戻りつつある。						
施策	市民研究員養成事業参加者数	65	79	95	105	111	89	90
3		80	98.75	118.75	131.25	138.75	111.25	112.50
変動要因等	2018年度	市民研究員養成事業第2期開始時点、2016年、5グループ・参加者65人。その後、5グループで9人の加入があり、2018年度、語り伝承グループが発足、参加者5人。市民(市民研究員)同士の交流や博物館活動発表展の効果による。						
	2019年度	広報や、市の催事など市民研究員を紹介する機会があれば掲載や告知をし、また、市民研究員の紹介で、79人から95人に増加した。						
	2020年度	広報や、市の催事など市民研究員を紹介する機会があれば掲載や告知をし、また、市民研究員の紹介で、95人から105人に増加した。						
	2021年度	広報や、市の催事など市民研究員を紹介する機会があれば掲載や告知をし、また、市民研究員の紹介で、105人から111人に増加した。						
	2022年度	市民研究員養成事業第4期がはじまり、7グループ89人が活動をしている。						
	2023年度	7グループ90人が活動をしている。複数のグループに加入しているものがあり、延べ122人が活動している。						
柱1	企画運営会議件数	2	3	1	-	1	-	1
1		3	100.00	33.33	-	33.33	-	33.33
変動要因等	2018年度	総合博物館の運営は、博物館協議会のほか、内容の専門性に応じて、企画運営会議に説いていく。委員、事務局、双方が2件ずつの提案を目標としている。この年度は、事務局から2件提案した。(実施計画、翌年度事業計画)						
	2019年度	今年度は1回しか開催できなかつた。翌年度事業計画を提案したが、委員から、中長期的計画を求められ、来年度以降提案していく。						
	2020年度	今年度は新型コロナウイルスの流行もあり、全く開催することはできなかつた。						
	2021年度	今年度は新型コロナウイルスの流行もあり、書面決議を1回行った。						
	2022年度	開催予定期間に新型コロナウイルスの流行があり、全く開催することはできなかつた。						
	2023年度	博物館が優先改革施設となつたため、現状の説明と、今後の博物館の在り方について説いた。						
柱1	収集資料数	50,000	50,282	52,417	56,695	59,621	60,617	62,81
2		51,500	97.63	101.78	110.09	115.77	117.70	121.96
変動要因等	2018年度	総合博物館の収蔵資料は、人文科学資料、自然科学資料ともに多岐にわたるが、植物などの標本資料は充実しているとはいえない。市民研究員養成事業と連動させ、資料収集を進めていく。						
	2019年度	旧民俗資料館時代からの古文書の整理を進めてきたが、今年度集中して行い、2,135点の台帳化が進んだ。自然科学資料は引き続き資料収集を行つてている。						
	2020年度	引き続き古文書などの収蔵資料整理や、新たに寄贈された自然系資料など4,278点を台帳化した。						
	2021年度	引き続き古文書などの収蔵資料整理や、新たに寄贈された資料など2,926点を台帳化した。						
	2022年度	引き続き古文書などの収蔵資料整理や、新たに寄贈された資料など996点を台帳化した。						
	2023年度	引き続き古文書などの収蔵資料整理や、新たに寄贈された資料など816点と天文関連資料を台帳化した。						

施策等名称	八ヶ岳総合博物館の充実	体系番号	0201020103
	主管課 文化財課		

### 3 評価・改革改善

項目		2018年（前年度比）	2019年（前年度比）	2020年（前年度比）	2021年（前年度比）	2022年（前年度比）	2018年～2023年（総括）
投資額 (2018年～2023年総括)については 2023年の実績 を記載)	事業費(円)	39,040,879		31,503,217	0.81	27,983,020	0.89
	うち一財(円)	33,557,599		30,013,927	0.89	27,284,660	0.91
	増減理由 (一般財源 前年度比 ±10%以上 の場合 に記載)						
評価	進捗評価	おおむね順調	おおむね順調	やや遅れている	やや遅れている	おおむね順調	おおむね順調
総合評価	主な取組内容や成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>開館30周年記念事業を実施し、多くの入館者があった。新しめメニュー（地域観察会、毎月お楽しみ会、ワニリカ特別投影、アングルペイント、自然觀察講座）を生み出し、博物館利用の選択肢を増やすことができた。</li> <li>モバイルプラタリウムの運営者は、着実に増加している。多くの市民の科学への関心が高まっている。</li> <li>市民研究員養成講座（第2期）に実質78人の参加があり、30人が認定された。認定者には、より博物館活動に関わってもらう。</li> <li>市民研究員の活動により、自然や文化に関する資料が多数収集、蓄積されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂本義川と壇についての常設展があるが、来館者からの要望があったが、説明する資料がなかった。企画展を開催し、資料を発行することことができた。</li> <li>・モバイルプラタリウムは、昨年度に引き続き実に増加している。</li> <li>・市民研究員養成講座（第2期）の参加者は、95人となり、増加した。</li> <li>・収蔵庫内の未整理資料は、着実に台帳化が進んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵庫の資料整理は、未整理資料、新収蔵資料併せて4,278点の整理ができた。</li> <li>・新型コロナウイルス蔓延により、多くの事業が中止となつたが、星景写真展を開催することができた。これまで、八ヶ岳について聞かれることが多かったが、八ヶ岳の主要峰を記した絵葉書を作成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス蔓延により、多くの事業が中止となつたが、星景写真展を開催することができた。</li> <li>・星景写真展の開催のうち、成果の一部を「開拓地方の語り伝承第3集」として発刊し、広く市民に提供することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(R4・総括評価共通)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民研究員養成講座第4期が始まり、人材が養成されたため、人材は育ったが、精力的に活動を始めた。調査研究の成果の一つとして、懸念したことから見られないシグナルを開拓地方で発見することができた。</li> <li>・WITCコロナの考え方が定着し、徐々に審査が進んでいた。プラタリウムは人數を制限するものの、回答対応や出前講座に取り組んでいた。</li> <li>・収蔵庫に収蔵スペースを作ったり、見やすい配置となたりするよう収蔵庫を進められた。</li> <li>・国立国際研究所等と共同で天文学に関する企画展を開催した。年末度には学術研究会を始め、来年度以降の開催、研究、発表につなげる準備が進んだ。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民研究員養成講座では、活動発表会の展示だけではなく、研究結果の発表を行い、成果を市民に還元していく方向を見出した。</li> <li>・プラタリウムは徐々に上映希望団体からの申請が増えてきた。人數を制限するものの、回答対応や出前講座ににおけることができた。</li> <li>・文芸館の展示を再開することでき、新収蔵資料を市民に公開することができた。</li> <li>・高校・大学との連携を進め、博物館事業を協力して開催することができた。</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の動向と市民ニーズを的確に捉え、企画展を始め各種事業を実施し、市民に多くの学習機会を提供していく必要がある。</li> <li>・日々、寄贈資料があり、これに対して整理作業をしなければならないが、すぐ対処できず溜まってしまう。</li> <li>・人文系資料の他、自然系資料も増えているため、収蔵場所を考えていかなければならぬ。</li> <li>・博物館の市内の学校利用が思ったほど進まず、学校の利用方法を考えいかなければならぬ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の動向と市民ニーズを的確に捉え、企画展を始め各種事業を実施し、市民に多くの学習機会を提供していく必要がある。</li> <li>・日々、寄贈資料があり、これに対して整理作業をしなければならないが、すぐ対処できず溜まってしまう。</li> <li>・人文系資料の他、自然系資料も増えているため、収蔵場所を考えていかなければならぬ。</li> <li>・博物館の市内の学校利用が思ったほど進まず、学校の利用方法を考えいかなければならぬ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスにより、多くの企画や講座が中止となつた。代替企画を考えていく必要がある。</li> <li>・日々、寄贈資料があり、これに対して整理作業をしなければならないが、すぐ対処できず溜まってしまう。</li> <li>・文芸館の展示を、企画展などの開催により、元に戻せない状況にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスにより、多くの企画や講座が中止となつた。代替企画を考えていく必要がある。</li> <li>・日々、寄贈資料に対して整理作業をしなければならないが、すぐ対処できず溜まってしまう。</li> <li>・文芸館の展示を、企画展などの開催により、元に戻せない状況にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(R4・総括評価共通)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス流行を契機に事業の取扱選択を行った、市民ニーズを的確にとらえ、今後は、より魅力のある事業を企画する必要がある。</li> <li>・日々の寄贈資料に対して整理作業をしなければならないが、すぐ対処できず溜まってしまう。</li> <li>・文芸館の展示を、企画展などの開催により、元に戻せない状況にある。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症により離れていた来館者に再び博物館に戻り学習を進めてもらいため、市民ニーズを的確にとらえた学習機会の提供と、それを周知する情報発信の方法を模索する必要がある。</li> </ul>
改革・改善	改革・改善内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記念事業で新たに実施した講座・イベントは、今後も視点を変えて継続していく。</li> <li>・調査研究や資料収集を市民研究員とともに進めていく。</li> <li>・モバイルプラタリウムの公民館分館への出前投影に応じるよう、公民館用出前カレンダーをつくり公表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座・イベントは、これまでの内容を再検討し、中止や新たに開講していく。</li> <li>・収蔵場所については、館外施設も含めて検討していく。</li> <li>・小中学校へ働きかけ、博物館の学校利用を促進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座・イベントは、これまでの内容を再検討し、中止や新たに開講していく。</li> <li>・収蔵場所については、館外施設も含めて検討していく。</li> <li>・新型コロナウイルスに影響を受けない、デジタルを使った、配信などを考えていく。</li> <li>・岳麓文芸館の資料整理を行い、常設展に戻していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座・イベントは、これまでの内容を再検討し、中止や新たに開講していく。</li> <li>・収蔵場所については、館外施設も含めて検討していく。</li> <li>・岳麓文芸館の資料整理を行い、常設展に戻していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内の整理を進め、収蔵スペースを確保していく。</li> <li>・デジタルアーカイブ構築への検討や、新型コロナウイルスに影響を受けない、デジタルを使った、配信などを考えていく。</li> <li>・岳麓文芸館の資料整理を行い、常設展に戻していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の新設や、視点を変えた企画展・特別展を開催する。</li> <li>・新収蔵資料を随時公開し、学習機会を提供する。</li> <li>・デジタルアーカイブ構築への検討やデジタルを使った、配信などを考えていく。</li> </ul>
	重点化する施策の柱 重点事務事業	2	2	2	2	2	2
施策の柱等の重点化	理由	1	1	1	1	1	1
	地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展などの形で、市民に提供するため。	地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展や刊行物などの形で、市民に提供し、茅野市のまちづくりに反映させるため。	地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展や刊行物などの形で、市民に提供し、茅野市のまちづくりに反映させるため。	地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展や刊行物などの形で、市民に提供し、茅野市のまちづくりに反映させるため。	地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展や刊行物などの形で、市民に提供し、茅野市のまちづくりに反映させるため。	地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展や刊行物などの形で、市民に提供し、茅野市のまちづくりに反映させるため。	地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展や刊行物などの形で、市民に提供し、茅野市のまちづくりに反映させるため。

作成担当者	両角 英彦	柳川 英司	柳川 英司	正木 美香	正木 美香	正木 美香
最終評価責任者	平出 信次	北沢 政英	北沢 政英	北沢 政英	上田 佳秋	上田 佳秋
最終評価年月日	令和元年5月29日	2020年7月10日	2021年5月28日	2022年5月30日	2023年10月18日	2024年7月11日